



ポリリン酸は光合成活性を高めます

試験地：(株) 生科研試験圃場

- ◆ポリリン酸の施用により、光合成活性が高まり、地下部重量が増加しました。
- ◆また、開花が早くなる傾向が見られました。

地上部の比較 (調査日：2018.11.09)

※矢印は開花した花を指す



地下部の比較 (調査日：2018.11.22)

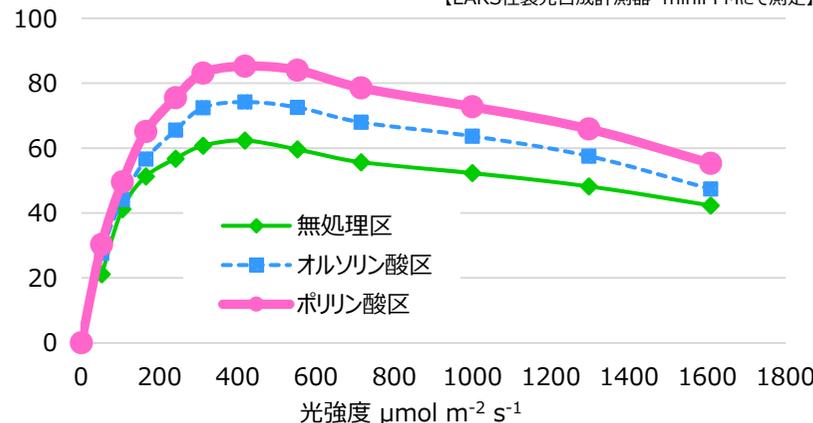


【試験方法】

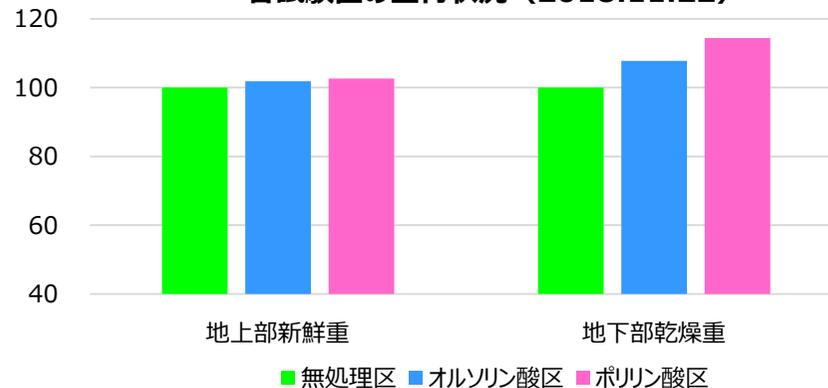
- ◆播種：2018/9/12 ◆処理日：10/26, 11/2, 11/8 (5葉展開時より散布開始)
- ◆各区の処理方法 (5反復)

無処理区	各区散布液と等量の水を散布した。
オルソリン酸区	両区のリン、カリの量は同量となるよう調整し、300倍にて散布した。(P ₂ O ₅ 換算=3.1% K ₂ O=3.3%に調整)
ポリリン酸区	

光合成速度 $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$ 光合成活性測定結果 (2018.11.09)
【EARS社製光合成計測器 miniPPMにて測定】



各試験区の生育状況 (2018.11.22)



ポリリン酸区では、オルソリン酸区より光合成活性が高まり、また地下部重量が高くなったことから、ポリリン酸は光エネルギーの利用効率を高め、同化産物の合成を促進する作用があることが推察された。